国際青年環境NGO A SEED JAPAN

2012年度　年次報告書

A SEED JAPAN

Action for **S**olidarity, **E**quality, **E**nvironment, and **D**evelopment

青年による環境と開発と協力と平等のための国際行動

A SEED JAPAN は、1991 年 10 月に設立された日本の青年による国際環境 NGO（非政府・非営利組織）です。
1992年6月、ブラジルで開催された「地球サミット（国連環境開発会議）」へ青年の声をとどけるため、世界約 50 ヶ国 70 団体が参加して「A SEED 国際キャンペーン」の日本の窓口となったのが始まりでした。
私たちは国境を越えた環境問題とその中に含まれる社会的な不公正に注目し、より持続可能で公正な社会を目指しています。そのために現在の大量生産・大量消費・大量廃棄のパターンの変更と、南北間・地域間・世代間の格差をなくしていくことが必要だと考えます。
このような社会を実現するために、未来の世代を担う青年自らが行動を起こしています。

—— 数々の国際会議に青年の声を届ける

A SEED JAPANが関与した主な国際会議

◆A SEED 国際キャンペーン時代（1991 年 9 月～1992 年 7 月）

1990	10月	世界約 50 ヵ国以上の青年環境団体が参加して「A SEED 国際キャンペーン」が欧米の26ヶ国でスタート。
1992	6月	リオデジャネイロで開かれた150ヶ国以上の首脳が参加した地球サミット（国連環境開発会議）および NGOグローバルフォーラム（ブラジル）に代表を派遣。

◆A SEED JAPAN 時代（1992 年 7 月～）

1995	4月	Youth Action for APECキャンペーン発足。
1997	12月	気候変動枠組み条約第3回締約国会議（COP3）にて、メディアアピール活動を展開。
1998	1月	A SEED Europeと連携して「ウクライナ原発反対のDICEキャンペーン」を展開。
2002	8月	国連持続可能な開発会議（南アフリカ・ヨハネスブルグ）へ7名を派遣。
2007	3月	世界水フォーラム（大阪・京都・滋賀）にてアクションを実施。
2007	3月	アジア開発銀行（ADB）年次総会において、化石燃料から自然エネルギーへの転換を求めるパフォーマンスを実施。
2008	3月	Japan Youth G8 Projectと共催で「持続可能な社会のための日本青年サミット/Japan Forum Toward G8 Summit～for Sustainable society～」を開催。
2008	7月	北海道・洞爺湖で開催された洞爺湖G8サミット直前に、他のユース団体と世界青年フォーラムを開催し、政府担当者とのダイアログを実施。
2010	10月	生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）へ活動メンバー60名を派遣し、アクション、提言活動を実施「COP10重要論点フォーラム～これだけは譲れない！ユースの視点～」を開催。
2012	6月	国連持続可能な開発会議（リオ+20）へ活動メンバー３名を派遣。

社会を変える仕組みをつくる

エコ貯金宣言 11億円

エコ貯金とは？

銀行口座を「健全性」や「環境・社会的な取組みをしているか」という視点で選ぶ、新しい貯金スタイル。「エコ貯金」宣言は、2012年12月までで 11億円に上りました。

13,000 台の携帯電話がゴリラの保護へつながる

ケータイゴリラは2008 年より、使わなくなった携帯電話をリサイクル・リユースし、ゴリラを守るための資金に変えるアクションを行っています。
リサイクルユースされるため回収した携帯電話の数は、2013年3月までで13,000台に上りました。

年間約1,700人のボランティアと 11,000人のキャンペーン参加者とともに 世界一クリーンな野外ライブをつくりあげる

ごみゼロナビゲーションでは、野外音楽フェスティバル、環境イベントを中心に、「ごみを拾う」のではなく、会場で廃棄されるごみの削減やリサイクルを「参加型」で実践するアクションを実施。
今では年間20本のイベントで活動を実施しています。

ASEED JAPAN

A SEED JAPAN の使命

A SEED JAPAN は、環境問題の中に内在する社会的不公正の解決を目し、以下のことを踏まえ行動します。

1 環境問題を経済や社会構造そのものから見据えていきます。

私たちは、環境問題や南北問題が進行している原因が経済や社会の構造そのものにあると考え、その根本にある原因を見据えて行動します。

2 青年の立場から環境問題をわかりやすく伝えていきます。

私たちは、環境問題や社会的不公正について、それらの問題と私たちのライフスタイルが密接につながっていることを青年をはじめとする多くの人々にわかりやすく伝えていきます。

3 長期的視野を持って社会を変えていきます。

私たちは、地球の未来を危惧するメッセージを継続的に発していきます。
そして、長期的な視野を持ち、現在の社会システムを変えていくための提案と行動を起こしていきます。

また、A SEED JAPAN は以下の立場を担っていこうという認識を持ち、行動します。

●未来世代である青年としての立場

私たちは、青年としての立場から未来世代の利益を訴えていきます。また、現在の社会を変革し、新しい社会を創造していくことのできる存在として、誇りを持って活動します。

●NPO（非営利組織）としての立場

私たちは、NPO の一員として、その社会的責任を認識して継続的に組織を運営していきます。そして NPO 全体が相対的に強化されるように協力していきます。

●行政・企業・NPO のパートナーシップを創造していく立場

私たちは、環境問題を解決する為には、行政・企業・NPO のそれぞれが持つ問題解決能力をお互いに理解し、連携していくべきだと考えます。私たちは行政・企業とのパートナーシップ、そして NPO 同士のパートナーシップを創造していきます。

●世界の青年と協力し合う立場

私たちは、国境を越えた環境問題に対応するためにも、また”南”の視点を充分に理解するためにも、草の根で活躍する世界の青年達と積極的に協力していきます。

目次

A SEED JAPAN の使命　4

代表の言葉　5

チーム活動報告

ごみゼロナビゲーションチーム　6

エコ貯金プロジェクト　8

ケータイゴリラチーム　10

未来生活 now プロジェクト　12

水源 WATCH！プロジェクト　14

つながりの森を未来へプロジェクト　16

メディアＣＳＲプロジェクト　17

2012 年度の主な実施事業　18

会員からのメッセージ　19

2012 年度全体収支決算書　20

2012 年度報道採録　21

A SEED JAPAN 組織図／
2012 年度理事役員一覧　22

A SEED JAPAN 会員制度のご案内
A SEED JAPAN への寄付のお願い　23

代表の言葉

2012 年は「政治の年」だった、という印象を、日本の多くの青年が感じていることと思います。
私にとっての 2012 年は、「市民活動の年」。
原発再稼働､TPP 参加交渉といった政治関連の動きが話題になる度に、これらをめぐり活動する市民の動きもまた、多くのメディアに取り上げられました。
このような社会情勢のなか、2012 年度、A SEED JAPAN は 6 つのチーム・プロジェクトで活動してきました。
どのような活動を行い、どのような成果を得たのか。ぜひ本資料でご確認ください。

ネット選挙解禁をきっかけとして、2013 年度は、政党による青年層へのアプローチがこれまで以上に活発になると予想されます。私たち青年は、政治に、社会に、どんな声を伝えていくのか。
「青年の立場から環境問題をわかりやすく伝えていく」という A SEED JAPAN のミッションの遂行が、いままで以上に求められます。
東日本大震災が発生したのは、私が代表に就任する直前でした。
事務所の移転や原発再稼働についての議論は、当時の私にとっては非常に重く、代表という立場をつらく感じた時期もありました。
しかし、活動すればするほど、「青年」の立場からアクションを起こしていく必要性を強く感じ、この想いが、常に活動の原動力となっていました。

私はこの 2年間、A SEED JAPAN の代表として、そして A SEED JAPAN というチームの一員として活動できたことを、心から誇らしく思います。
支えてくださったすべてのみなさま、本当にありがとうございます。
どんな時代にあっても環境問題を常に根本から見据え、解決を目指していく A SEED JAPAN のこれからの動きに､ぜひご注目ください。
今後とも､変わらぬご支援・ご助力をどうぞよろしくお願いいたします。

2012 年度代表　草刈良允

ごみゼロナビゲーション

私たち「ごみゼロナビゲーション」は、
1）「個人が身の周りの問題に無関心・無責任になることと、
2）「社会のしくみ」が人々の対等な関係を拒み参加を受け入れないこと、
この 2 つが、社会の大きな問題だと考えています。「個人」と「社会のしくみ」という 2 つの問題が絡み合って「問題が解決しづらく参加を受け入れない社会」が生まれます。
ごみゼロナビゲーションは、「個人」が声を上げるようになり、「社会のしくみ」もその声を受け入れる「参加型社会」を目指して、双方を同時に変えていきます。

■2012年度の活動

10,000 人以上の参加者とつくりあげるキャンペーン活動を展開

・12 本のイベントでナビゲート活動を実施し、来場者に対してごみと資源の分別を呼びかけ、自らの手で分別してもらいました。
・キャンペーンにはのべ 10,997名が参加してくれました。
・今年度はのべ 1,690 名のボランティアが活動に参加してくれました。そのうち新規参加者は約 6 割でした。

▲リユースカップ
▶キャンペーンバッグ

ap bank fes―過去最大規模のリユース食器の導入に成功

年度内に 8 本のイベントにリユースカップ・食器を導入することに成功しました。今年は ap bank fes の3 カ所開催に伴い、過去最大規模のリユース食器の導入に成功しました。
また、「カップじゃぶじゃぶキャンペーン」には合計 1,585 名が参加してくれました。
この活動を通して、使い捨て容器の削減に貢献し、リユース食器導入イベントの可能性を感じ取る機会となりました。

THE SOLAR BUDOKAN―日本で初めて太陽光発電でのロックコンサートが実現

脱原発を前向きに考え自ら行動する社会派アーティスト（佐藤タイジ氏、加藤登紀子氏など）とチームメンバーがつながり、関係を深める事ができました。また、佐藤タイジ氏による「THE SOLAR BUDOKAN」では、チームメンバーが太陽光で電気をためた蓄電池の回収等の活動を行いました。
結果として、日本で初めて太陽光発電でのロックコンサートが実現し、クリーンな太陽エネルギーの実用性を証明することに貢献したと思います。

LIVE ECO―全国 341 店舗/施設にリユースカップを導入

今や日本全国には様々なライブハウスが存在し、その数は 1,000 軒にものぼるようです。
しかしライブハウスの多くは、ドリンク用に「使い捨てカップ」を使用しています。
一回使っただけで捨てられるカップが日本全国各地で毎日…と考えたら、膨大な量となることが容易に想像できます。
そこで、ライブハウスがよりエコでピースな空間になってほしいという思いを込め、使い捨てカップの替わりに、繰り返し使える「リユースカップ」を提案しています。
今年度は、全国 341店舗/施設にリユースカップを導入しました。

2012 年度の総括

2012年度は、従来の活動を展開し、新しい取り組みに挑戦していきました。まず、ap bank fes’12 の 3 カ所開催に伴い、過去最大規模の40万人規模のフェスにおけるリユース食器導入を果たし、実に 43 万枚の使い捨て食器を削減することができました。
次に、ap bank fes’12 において、来場者がリユースカップの洗浄という、イベントのしくみに参加できる体験型ツアーを昨年より拡大して実施し、3 日間で 1,585名の方にご参加いただきました。これらは、より来場者のイベントへの参加性を高める企画になったと思います。
その他には、より環境負荷を減らすために、リユース食器ではなく家からマイ食器を持参することを推進しました。
ap bank fes’12 にて、より多くの方に食器を持参してもらうために、持参した方にオリジナルステッカーをプレゼントしました。結果、ap bank fes’12 の 3 イベント平均で約 11%(3 イベント合計で112,000人)の方が食器を持参したことが分かり、今後もイベントにマイ食器を持参する方を増やす取り組みをしていきたいと考えています。
活動したイベントの数は前年度より若干減少しましたが、今年も日本の野外イベントを少しでも環境に優しいものにするために活動できたと思います。来年度は、OG・OB メンバーとのミーティングで生まれた意見を活かし、より日本の若者を元気にするための新たな活動、新団体の設立に向けて活動を展開していきます。

2013年度に向けて――

長期目標

野外イベントの環境対策活動を通して、ワカモノの本気を引き出し、次世代を担う人材を育成します。A SEED JAPANの使命を大切にし、革新的で、対等な意識を持って公正な社会を作る人材を育成します。
「個人」と「社会のしくみ」という 2 つの問題が絡み合って「問題が解決しづらく参加を受け入れない社会」が生まれます。ごみゼロナビゲーションは、「個人」が声を上げるようになり、「社会のしくみ」もその声を受け入れる「参加型社会」を目指して、双方を同時に変えていきます。

短期目標

・音楽フェスティバル・環境イベントを中心に、イベントをより環境負荷の低い参加型の場にしていきます。
・新しいアクションの提案として、マイ食器マイボトルをイベントに持参する事を呼びかける WEB、冊子などを作り推進していきます。
・イベント以外の音楽のある日常の場に、リユースを広げるために、ライブハウスやクラブなどでのリユースカップの使用を促します。
・青年のおかれている立場や現代の課題/問題や青年自身の意識調査を行います。

実行手段

【環境対策活動とマイ食器の推進】
・ 2013 年度は 20 本以上のイベントで活動を実施し、またその内音楽イベント以外の分野で 5 本以上の活動を実施します。
・「マイ食器、マイボトルを持ってフェスに行こう!」プロジェクトを新たに立ち上げ、次の時代の環境対策活動を提案します。より多くの来場者が行動を起こし、ごみを減らすことができる企画進めます。
・ eco アクションキャンペーンブースでは 10,000 名以上の来場者に eco アクションを提案します。
・ FUJI ROCK FESTIVALやARABAKI ROCK FESTなどでは、引き続き来場者に参加頂き資源分別キャンペーンも継続して実施します。
・ 年間 1,000人以上のボランティアとともに活動を実施します。
・ 活動するボランティアの内、 5 割以上を新規参加者に活動してもらうことで、ボランティア活動に参加するキッカケを提供します。
・ 2013 年度は 8 本以上のイベントにリユース食器を導入することを目指します。
・ 来場者に対してリサイクルを行うより、リユースの方が環境に良いことを呼びかけることで、「使い捨てのライフスタイル」を変えていきます。
・ イベント主催者が使い捨て容器をやめ、リユースできる食器を使い始めることで「社会のしくみ」を変えます。

【LIVE ECO】
・ ライブハウス・クラブで 300 店舗以上、それ以外の分野も含めて 400 の場所にリユースカップを導入します。

【青年の人材育成】
・ ワカモノが本気で活動できる場をごみゼロナビゲーション以外にも作るために、様々な NPO や青少年団体を訪問し、ディスカッションします。
・ ごみゼロナビゲーションに参加するボランティア向けにアンケートを実施し、ワカモノのニーズ調査を行います。活動に参加する前と活動後にそれぞれ行い、意識の変化も調査します。
・ 他の団体とのコラボを進めるためにも、最低 2 団体と共同のワークショップを行います。具体的には、仙台ベースのボランティアインフォと組んで音楽ボランティアの横断的なつながりを作るワークショップを5月19日に開催予定です。

エコ貯金

あらゆる人々の人権が尊重される、フェアで公正な社会づくりに貢献する金融のしくみを

自然環境と人間が持続可能な形で共存、共生することが可能であり、エネルギー・食料・住宅など、私たちの生活に必要なものが持続可能かつ安全な形で供給され、あらゆる人々の人権が尊重される、フェアで公正な社会づくりに貢献する金融のしくみを実現します。

■2012年度の活動

提言――全国の金融機関に公開アンケートを送付

2012年10月に、全国の219機関に対して公開アンケートを送付し、23機関からの回答を得ました。原発や再生可能エネルギーに対する融資方針等を伺いました。この公開アンケートの回答結果については講評を加え、金融機関の取組みに対して比較・評価し、結果をWEBで公開しています。
再生可能エネルギーの設問で、大半の金融機関が再生可能エネルギー事業に対する投融資を増やすと回答されているので、今後の取り組みが期待されます。
原発関連の設問では、原発関連施設や原発関連施設製造産業及び輸出産業への投融資に関して、無回答とする金融機関が多く見られました。
原発の問題は非常に複雑で回答しづらいのだと思われますが、市民が関心のある問題として、金融機関に対して今後もこの問題を問い続けたいと考えます。

啓発――執筆活動でエコ貯金を広める

週刊誌「週刊金曜日」に、１月から３月の毎週、コラム「エコ貯金でいこう！」を連載しました。メンバーで執筆を担当し、エコ貯金の考え方を多くの読者に広めることができました。
また、公開アンケートの回答結果をWEBで公開したり、エコプロダクツ2012で紹介したりすることを通じて、エコ貯金の考え方を市民に広めることができたと考えています。

対話――地域と世界、金融機関と市民をつなぐ国際シンポジウムを開催

2012年12月にグリーンエコノミー国際シンポジウム「市民と金融機関の対話から生まれる持続可能な社会」を2日間に渡り開催しました。これによってBankwiser Internationalの活動を日本においてスタートするきっかけとなり、フェアで公正な社会づくりに貢献する金融のしくみを実現する、新たな一歩となりました。
また、2012年７月に福岡で行われた、全国のNPOバンクが一同に会する「第４回　全国NPOバンクフォーラム」の１つの分科会をエコ貯金プロジェクトで受け持ちました。NPOバンクと出資者、融資先等の関係者が出会い、互いを知り、交流する場を提供しました。

2012 年度の総括

今年度は計画していた実行手段に関しては全て実行しました。Earth Day Tokyo2012、エコプロダクツ2012へのブース出展、金融機関への公開アンケートの送付及び回答結果の公表と色々ありましたが、中でも国際シンポジウムの開催を機に、Bankwiser International の活動を日本で行っていくことへの足がかりが作れたのは大きな成果だと考えます。
計画していたこと以外には、「第４回全国NPOバンクフォーラム」の分科会の企画・運営や、「週刊金曜日」へのコラム連載を行いました。また、ゆうちょ財団が発行する機関誌「個人金融」に論文を寄稿する事にもなりました。
今までの活動を地道に続けながらも、少しでも新しい活動をしていき、長期目標に近づくように今後もエコ貯金プロジェクトの活動を続けていきたいと考えます。

2013年度に向けて――

自然環境と人間が持続可能な形で共存・共生することが可能で、エネルギー・食料・住宅など、私たちの生活に必要なものが持続可能かつ安全な形で供給され、あらゆる人々の人権が尊重される、フェアで公正な社会づくりに貢献する金融のしくみを実現します。

短期目標

・提言：公開アンケートを金融機関（メガバンク、主要地方銀行等）に送付し、フェアで公正な社会づくりに向けた金融機関側の取り組みを促進します。
・啓発：環境イベントへのブース出展や、雑誌等への執筆等の方法を通じて、エコ貯金の考え方をより多くの市民に広めます。
・啓発：NPOバンクについての情報を市民に提供し、預金先の選択肢を広げます。

実行手段

・2013年４月：環境イベント「Earth Day Tokyo 2013」にブース出展をします。（啓発）
・2013年９月：金融機関に公開アンケートを送付します。（提言）
・雑誌等からの依頼や自らの働き掛けで得た執筆機会を通じて、エコ貯金の考え方を伝えていきます。（啓発）
・金融機関の行動指針として作成された「21世紀金融行動原則」の預金者版として、フェアで公正な社会づくりに貢献する金融のしくみにするには、預金者がどのような行動をすれば良いかを定めた「預金者行動原則（仮称）」の作成を行います。（啓発および提言）
・全国のNPOバンクに対して、各地の学生団体等と一緒にインタビューを行い、その情報をWEB等で発信します。（啓発）

～「エコ貯金」が当たり前になる日を目指して。～

「多様な生物の生きる権利が尊重され、それを先進国が奪わない社会」の実現を目指し、「ケータイと「ゴリラ」との関係にとどまらず、問題の根本解決に向けたしくみづくり・市民啓発活動を継続的に行います。

■2012年度の活動

携帯電話13,000台（総計）を達成

不要な携帯電話のリサイクル・リユースに取り組み、今ある資源の有効活用を行いました。リユースによって得られる収益をもとに、エコケー株式会社とのパートナシップにより、今年は約11万円をリユース収益として寄付しました。リサイクルも含めた寄付金額総計は54万円でした。

回収した主なイベント：
・Earth Day Tokyo2012
　2日間で計327台の携帯電話を回収。
・J-WAVE FLEAMARKET in Roppongi Hills 2012
　322台の携帯電話を回収

ケータイゴリラの仕組み

これまでに携帯電話が爆発的に普及していく中で、コンゴ民主共和国の人やゴリラや自然が傷つけられてきましたが、そんな携帯電話を生き残っているゴリラを守るために活用しようという取り組みがこのキャンペーンです。
このキャンペーンでは使用済み携帯電話をリサイクル・リユースし、その収益をゴリラ保護団体に寄付する事で、生き残っているゴリラを守るための活動を行っています。
コンゴ民主共和国の人々とゴリラを、使わなくなった携帯電話を通じてご支援ください。

学生を中心に問題をわかりやすく伝えるワークショップを実施

・出前授業の実施
　3月に神奈川総合高校、10月に青山短期女子大学にてそれぞれ出前授業を行い問題の啓発に努めました。

・イベントでワークショップの実施
　Earth Day Tokyo 2012、環境ボランティア見本市2012にて子ども向けのワークショップを行い、エコプロダクツ2012でもクイズを用いた参加型のワークショップを実施しました。

より充実した情報発信を

・チームのWEBの全面リニューアルを2月に行い、発信力を向上。イベントの報告、回収の告知、日々の打ち合わせの共有など２日　に一度程度、メンバーが情報を更新しました。

●法人・団体からのご寄付

日程	イベント吊/回収場所	携帯電話	小型家電
1月19日～21日	六本木ヒルズ自治会イベント	341台	
3月19日	WESHOP にのみや	11台	
3月21日	WESHOP　ほどがや天王町	14台	
4月21日～22日	Earth Day Tokyo 2012	306台	21台
4月7日～30日	キューン20デイズ&イヤーズ	15台	
5月5日～6日	J-WAVE FLEA MARKET in Roppongi Hills 2012	302台	20台
6月2日～3日	エコ・ライフフェア2012	25台	
7月9日	ごみゼロナビゲーション活動に参加したボランティアより	6台	
7月14日	環境ボランティア見本市2012	8台	
9月8日	A SEED JAPAN ボランティアより	5台	
9月21日	AVEDA南青山店ジャングルボックスより	105台	
10月6日～7日	グローバルフェスタJAPAN・2012	24台	24台
10月23日	堺町画廊ジャングルボックスより	37台	2台
10月28日	A SEED JAPAN事務所より	2台	
11月11日	A SEED JAPANボランティアより	4台	
11月12日	Ge´GORILLA LIVEにて	11台	
2月13日～15日	エコプロダクツ	296台	26台

●支援先について

ポレポレ基金（Polepole　Foundation）

コンゴ民主共和国東部のカフジ・ビエガ国立公園でゴリラのエコ・ツアーのガイドをしているジョン・カヘークワさんと地元の若者が中心となって1992年に創設されたNGO。ゴリラをはじめとした野生生物や自然の保護活動や、幼稚園から中学校まで環境教育ができる学校を建てるなど教育を通じた活動を行っています。日本支部ではパンフレットや映像などを通してこの活動を広め、現地の民芸品の販売などを行うことでこの活動をサポートしています。

国際ゴリラ保全計画

(International　Gorilla　Conservation　Program)

国際ゴリラ保全計画はゴリラの保護に特化して活動している団体です。アフリカ山間部の森林と、そこに棲む多くの種を保護するために持続可能な管理を保証し、生存を脅かす問題を解決することを目的とし、絶滅に瀕したマウンテンゴリラおよびその生息地の保護を実施し、地域の持続可能な開発に寄与するような越境保護区群の共同管理、協力的な保護政策の採択への働きかけを行っています。

2012 年度の総括

2012年度は、使われなくなった携帯電話をリサイクル・リユースし、資源を有効活用するという目標と、コンゴ民主共和国の現地市民やゴリラを支援するために寄付金額を増大させるという目標を立てて活動を行いました。これらの目標を達成するために、年間を通じて7回の環境イベントに出展した他、高校や大学の授業で問題の普及啓発にも努めました。54万円をポレポレ基金に寄付し、2,000台を越える携帯電話をご寄付頂いた2012年度ですが、その一方で回収以外の活動が手薄になった事も課題でした。2013年度は携帯電話とゴリラにまつわる問題の根幹、「環境と社会に配慮した（＝エシカルな）調達」によって作られた携帯電話を企業に求めていく事を計画に盛り込みました。WEBやtwitterを戦略的に用いつつ、問題の解決に向けてより核心に迫る活動を行っていきます。

2013年度に向けて――

地球上の多様な生物の生きる権利が等しく尊重される社会の実現を目指し、「ケータイ」と「ゴリラ」との関係にとどまらず、問題の根本解決に向けたしくみづくり・市民啓発活動を継続的に行います。

短期目標

・不要な携帯電話のリサイクル・リユースに取り組み、今ある資源の有効活用を行います。
・ 社会や環境に配慮した携帯電話を製造するよう、家電製品製造企業、携帯電話通信事業者（docomo、au、softbank等）に働きかけます。
・ ワークショップなど参加型の市民啓発活動を通じて持続可能な資源利用を求める市民の数を増やします。
・ゴリラの保護に関して、他団体と連携してより現地に貢献できるような体制を構築します。
・現地のNGOと連携して支援活動を行うために、彼らとの話し合いの場を持ちます。

実行手段

・ Earth　Day　Tokyo　2013を始めとして年に数回ブース出展を行います。
・ 大学や高校の授業に講師を派遣し、若者世代へ問題を広く伝えます。
・ ブース出展時にクイズラリーやWEBアプリなどの参加型コンテンツを取り入れます
・ twitterやブログによる情報発信を継続的に行います。またSNSとWEBサイトを連携し拡散能力を向上させます。
・ ポレポレ基金日本支部と共にコンゴ民主共和国に関する勉強会、イベントを開催します。

未来生活NOW!

・経済の持続性を目的とする「資本系グリーン・エコノミー」と、生命の持続可能性を目的とする「生命系グリーン・エコノミー」に対話と調和を促すことで、「経済成長中心」から「生命のための経済」へ、モノ（資源）・カネ（金融）・情報（メディア）のしくみを変えます。

・「グリード・エコノミー（不公正な経済）」に節度を求め、「生命系の経済（地産地消を基本とする有機農業が目指す、食・エネルギー・医療の地域での自給の在り方）」の主流化を実現します。環境やコミュニティを破壊する資源採掘をストップさせ、持続可能な形で資源利用が行われる社会を目指します。

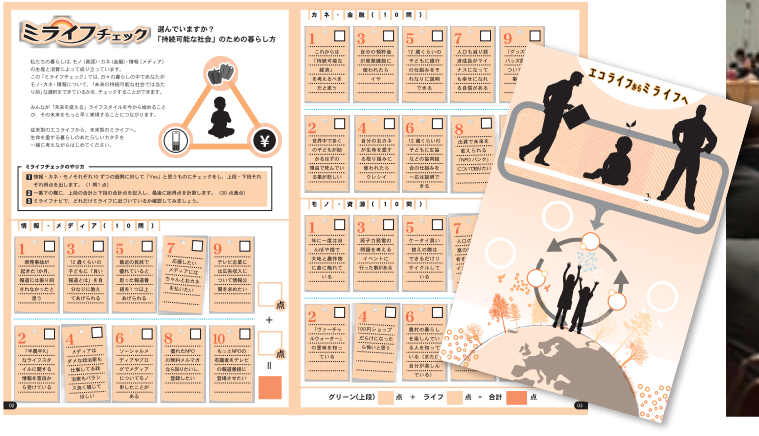
■2012年度の活動

国際社会に対して提言を―リオ+20に向けて

リオ+20までにポジションペーパー「グリーン・エコノミーに対話と調和を」を作成し、ブラジルでのリオ+20にメンバー３人を派遣。NGO連絡会を通して政府担当者との会合に参加し、提言を行いました。リオ+20の成果文書では、各国や企業による持続可能性の自主的な推進・報告を進める事の重要性を認め、ベストプラクティスモデルを開発し、持続可能性報告を組み込む行動を推奨することが盛り込まれました。またリオ+20開催期間中に、世界の37金融機関が「自然資本宣言」への署名を宣言しました。これらグリーン経済の動きを引き続き市民が監視・提言していく事の重要性を確認し、今後のＡSEED JAPANの国際会議キャンペーンの骨子となるビジョンを深める事が出来ました。

モノ・カネ・情報の選び方を、幅広い層へ提案

参加型コンテンツ「ミライフチェック」を開発し、Earth Day Tokyo2012等のイベントブースで300名を超える来場者に啓発を行いました。
2012年12月に冊子「エコライフからミライフへ」を3,000部発行し、青年・NPO・金融機関等に対し配布しました。



6回のシンポジウム・イベントで金融機関・有機流通団体と連携

2011年3月から数え2013年3月までに６回のグリーン・エコノミー・シンポジウムを開催し、500名を超える参加を得る中で、facebookページで79人、より直接的なつながりとして30団体を超えるネットワークを構築できました。対話の相手として有機流通団体や地域金融機関との連携も前進しました。イベントではEarth Day Tokyo 2012、環境ボランティア見本市2012、エコライフフェア2012、グローバルフェスタJAPAN 2012、土と平和の祭典2012、エコプロダクツ2012の6つのイベントでブース出展しました。３度のフォーラム／シンポジウム、2度の主催ツアー合宿、その他合同あるいは他団体と協力してのトレーニング／セミナーを7度実施し、合計250名以上の参加を得ました（うちリオ+20報告会は３度実施）。

2012 年度の総括

2012年度から「未来生活now」プロジェクトとして新たに体制を整え、遠くブラジルでのリオ+20に対して、東日本大震災と放射能汚染による国内情勢を踏まえつつ、公正で持続可能な経済システムの提言および啓発を実施した点で、A SEED JAPANらしい活動を展開できた1年でした。10年前の国連持続可能な開発会議から「買う・働く・貯金するエコライフ」というテーマが生まれ、今回のリオ+20では「モノ・カネ・情報のミライフ」に進化し、「東京における生命を大事にする地域自給社会づくり」の主流化に帰結したことは、未来生活nowプロジェクトの今後の事業展開にとって重要な変化といえるでしょう。さらに、facebookやtwitterなど、ソーシャルメディアの活用、携帯アプリ開発など、青年らしいツールに着目した活動も活発に行いました。
加えて、史上最悪の原発事故を起こしてしまった日本の未来世代として、環境問題を構造的視点でとらえ、オルタナティブを提言・実践するプロジェクトとして、現場の声を聴き、NGOのネットワークを駆使して原発問題／放射能汚染にも向き合い続けた1年でもありました。

2013年度に向けて——

長期目標

・経済の持続可能性を目的とする「グリーン・エコノミー」と、生命の持続可能性を目的とする「ライフ・エコノミー」に対話と調和を促すことで、「経済成長中心」から「生命のための経済」へ、モノ（資源）・カネ（金融）・情報（メディア）のしくみを変えます。そして、化石燃料を盲目的に使用し成長を過剰に追及するような経済である「ブラウン・エコノミー」に節度を求め、地産地消を基本とする有機農業が目指す、食・エネルギー・医療の地域での自給の在り方としての「ライフ・エコノミー」の主流化（日本における有機農業の割合を現状の0.3%未満から3%以上へ10倍にする事）を実現します。

短期目標

・「グリーン・エコノミー」のプレイヤーである企業/団体30以上と、「ライフ・エコノミー」のプレイヤーである農家/団体30以上とのネットワークを形成し、対話と連携を通して、「東京における生命を大事にする地域自給社会」を推進できる拠点を作ります。首都圏（特に新宿エリア）のＣＳＲ推進企業（飲食・流通業、金融業、情報通信業（メディア）、資源・エネルギー関連業等）と、首都圏の有機生産者の協働による、新宿エリアでの勉強会／交流マルシェ企画を継続的に実施します。

実行手段

１）連携・協働の場の設定（勉強会・シンポジウム・物販・その他出展）
・「東京における生命を大事にする地域自給社会」を広める勉強会・物販企画を６回以上、実施します。

２）人を巻き込む活動（ツール開発・啓発・メンバー募集）
・WEB/アプリ、冊子/パネル等を制作し、メンバー募集と啓発のためのブース出展を、６回実施します。

３）「ライフ・エコノミー主流化のための提言活動」
・東京都/新宿区に対し、有機農業推進に関する政策提言を行います。
・12月に開催されるエコプロダクツ2013において、チーム連携に基づくブース展示、フォーラム企画を統合的に展開し、参加企業およびメディアに対し、提言を発信します。

水を利用する各主体同士の情報共有を促進させることによって、それぞれの責任(Social Responsibility)を明確にし、生命にとって必要不可欠な水源地を持続可能に利用していくための管理・保全体制を構築します。

■2012年度の活動

アプリとクイズで啓発活動

Earth Day Tokyo 2012や、FUJI ROCK FESTIVAL´12 でのブース出展において、日常生活と水の関わりについてクイズ形式で啓発しました。また、消費者の食を通した間接的な水利用を可視化する WEB アプリの試用版を作成し、Earth Day Tokyo 2012 においてブース来訪者にモニターになってもらいました。

ブース出展の様子

水源現地視察

2010 年に水源視察で訪れた山梨県北杜市に再度視察を行い、2年前との問題の変化を調査しました。
そこで北杜市の水源管理担当者の方や現地住民の方にヒアリングを行いそれぞれの方に今議論されていることなどを仲介して伝えることができました。

水源保護啓発セミナー「みんなで守る、みんなの水。」開催

11月に開催したセミナー「みんなで守る、みんなの水。」において、皮むき間伐による森林保全を行う NPO「森の蘇り」の代表、大西氏を招き、更に15人の外部参加者とともに水源保全の実践について考えました。また、NPO 森の蘇りが主催する静岡県富士宮市の皮むき間伐のツアーに水源 WATCH！プロジェクトのメンバーが 3 名参加し、市民参加型の水源保全手段としての可能性を探りました。

2012 年度の総括

2012 年度末に控えたリーダー交代に向けて、新しいメンバーを中心に、新しい活動をつくりあげていった１年でした。スタディツアーなどを通してまずは私たちが市民参加型の水源保全の可能性を感じ、それをセミナーによって市民に伝えていく、という活動の流れを生むことができました。セミナーでは、参加者からの「現地で保全に取り組んでいる方々を消費者として応援していきたい」という声が依然として多く、このような意志をアクションに変えていくための仕組みづくりの必要性を強く感じました。
そこで、2013年度は仕組みづくりの観点から、自販機からの購入による水消費を相殺することを目的としたチャリティーベンダーのしくみを、多くの法人、企業と連携し、拡大していくキャンペーンを実施していこうと考えています。

2013年度に向けて――

長期目標

企業、行政、消費者、学生、ＮＰＯ、ＮＧＯを含む市民が水源枯渇の問題と市民各々にとって実践的な解決方法を認知し、実行していて、かつ協働して地下水源が持続的に利用され、健全に循環されている状態にしていきます。

短期目標

・水保全の新たな仕組みを作り出し、世の中に広めていきます。
・水源地で起きている過剰取水などの問題や将来起こり得る問題を市民に対して広く伝えます。

実行手段

・チャリティーベンダーの仕組みを導入したベンダー設置に関して、一つ以上の団体、法人内への設置を目標とします。

※チャリティーベンダー・・・・自動販売機で売られている飲料水の価格を数十円高く設定し、その分を水源保護活動に寄付する仕組み
・セミナーを実施することで、水問題に対して市民が考える機会を提供していきます。
・水源で起きている問題や水に関わる法整備、そして水に対する消費者の意識や使用状況などについての情報をプロジェクトの WEB サイトに掲載していき、facebook「いいね！」・twitter の「RT(リツイート)」合わせて 500 カウントを達成します。

チャリティーベンダーキャンペーン

～水を消費することが、水を守ることに～

いま、世の中の飲料の値段は120円です。しかし、大学、会社内の自動販売機は100円に値下げされています。そこでそれを120円に戻し、差額20円が水源保護活動に使われるとしたら…
水源保護の経済的しくみが生まれます。

つながりの森を未来へ

豊かな森林を未来世代へとつなぐため、森林の管理と利用をその地域の生物多様性や森林とつながりのある人々にとって持続可能なしくみとします。

■2012年度の活動

Paper change！漫画アクション —漫画の紙を FSC 認証紙へ—

FUJI ROCK FESTIVAL ´12 へブースを出展し、漫画に使用されている紙を FSC 認証紙に変えようという呼びかけを通して市民への普及啓発を行いました。

海外ワークキャンプ「青年が動く！ マレーシア 青年 NGO ツアー」開催

特定非営利活動法人ケアリングフォーザフューチャーファンデーションジャパン（CFF）と共同で未来を担う若者を森林破壊の起こっている現場とつなぐことを目的とし、11 月 1 日から 6 日にかけてマレーシアのサラワク州を訪れ、3 つの立場の方々にお話を伺い、現場の状況を多角的に知ることができました。まず、現地の NGO から森林破壊や人権問題についてお話を伺い、次に森林伐採・プランテーション開発に脅かされている先住民族にヒアリングしました。また、こうした問題に対するマレーシア政府の取り組みであるコンポストについてのお話を伺いました。海外ワークキャンプの参加者としては、チームメンバー 3 名、ASJ 活動会員 2 名、CFFメンバー 3 名、一般の若者 3 名が参加し、合計11名の広く未来を担う若者をエンパワーすることができました。

「グリーンエコノミーワークショップ —知らないと踏み出せない、わたしの生活と環境問題—」開催

2 月 26 日に京都にて開催しました。マレーシアへの海外ワークキャンプに参加したメンバーから現地レポートとして、現地で起こっている事や見てきたことについて伝えました。そして、貿易ゲームを通して森林とわたしたちのつながりについて考えを深めていただきました。

2012 年度の総括

わたしたちつながりの森を未来へプロジェクトは、「森林と人を含む全ての生命」を未来へつなぐために活動をしてきました。2012 年 4 月に本格的に活動を開始し、7 月には FUJI ROCK FESTIVAL ´12 でのブース出展で「漫画キャンペーン」を通して市民への呼びかけを行い、11 月にはマレーシアへの海外ワークキャンプを実施しました。
海外ワークキャンプでは、問題の現場を自分の目で見るという経験から、日本での生活とのつながりについて考え、問題解決のために行動するきっかけを創りました。12 月には、ツアーの現地報告を兼ねたワークショップを実施しました。

＜プロジェクトの解散について＞

2013年3月末、プロジェクトは終了しました。これまで多くの方々に献身的なご支援をいただき、一定の成果を生み出すことが出来ました。
これからも A SEED JAPAN では、国内外における森林問題を含め、青年の立場から、問題の根本を見据え、長期的な視点にたって持続可能な社会に向けた活動を続けていきます。

ホンキでテレビがCSR

持続可能な社会のために個人が主体的にメディアを選択する社会に向けた提言・啓発活動

メディアが健全な民主主義の実現に貢献しうる公共性（メディアCSR）を果たし、
個人が持続可能な社会のために主体的にメディアを選択する社会にします。

■これまでの活動

提言――大手民間テレビ企業にも社会的責任を求める活動を行いました

2010年５月、大手民間テレビ企業５社に対してメディア企業の社会的責任（以下メディアCSR）を問い、市民に広く発信することを目的に公開アンケートを送付しました。
返答があったのは2社、「メディアCSRを推進するためにNPOと協働することは2社。いずれも「検討したい」との回答でした。
この公開アンケート結果は、Earth Day Tokyo2010で公開しました。ブースに訪れた方々からは「マスメディアからのCSR報告書発行を期待する」「マスメディアとNPOの協働は必要」という意見をいただきました。

啓発――ニュースツイート

ニュースツイートは「大手民間テレビ企業の報道番組について、一緒にツイッターでつぶやこう！」というアクションです。
2011年から２年間毎週月曜日に大手民間テレビ企業の報道番組を対象に実施しました。
※日本テレビはNews ZERO、テレビ朝日は報道ステーション、TBSはNews23クロス、フジテレビはNews JAPAN、テレビ東京はワールドビジネスサテライトで実施（番組名はすべて2012年当時）
twitterの機能であるハッシュタグを利用し、ニュースツイートでつぶやかれたつぶやきは一覧できるようにしました（※ハッシュタグ#tvcsr）また、単につぶやいてもらうだけではなく、メンバー自身がニュースツイートに参加し、報道番組を評価する基準として市民の「知る・伝える・変える権利を守る責任」をメディアとして果たしているかどうかという視点でつぶやき、この基準を推奨していました。毎週つぶやかれたつぶやきは、メディアCSRプロジェクトWEBサイトでまとめて公開しています。まとめたつぶやきは大手民間テレビ企業に送り、ニュースツイートを通じた市民の声を届ける活動を行いました。

メディアとの対話――マスメディアと公共性に関する意見交換の場をつくりました

大手民間テレビ企業と対話の場を設けるため、「ホンキでテレビがCSRフォーラム2010～今こそ求めたいマスメディアの公共性と社会的責任(CSR)～」を2011年に開催しました。テレビ東京のCSR担当者にご登壇頂き、市民メディアの方、広告企業の方も交えて互いの主張を伝えあい、どのようにメディアの社会的責任を果たすかについて意見交換をすることができました。
また、フォーラム以外にも大手民間テレビ企業の報道番組関係者へ意見交換をする機会を提案し続けました。結果、非公式ながら数回担当者と意見交換する機会をつくることができました。

＜プロジェクトの解散について＞

2012年 12 月にチームは解散しました。これまで多くの方々に献身的なご支援をいただき、一定の成果を生み出すことが出来ました。活動の一部は『未来生活 now』へ引き継ぎ、形は変わりますが継続していきます。

2012年度の主な実施事業

月	内容／イベント名称	実施主体
年間を通じた事業	イベントでの活動実施（20本のイベント）	ごみゼロナビゲーション
	ごみ・資源分別ナビゲート活動の実施（13 本のイベント）	
	eco アクションキャンペーンの実施（10,977 名の参加）	
	リユースカップ・食器の導入（8 本のイベント）	
	1,690 名のボランティアの参加	
	携帯電話 2,000 台の回収	ケータイゴリラ
	WEB上でエコ貯金宣言の募集	エコ貯金
4	Earth Day Tokyo 2012 でブース出展	エコ貯金、水源 WATCH!、ケータイゴリラ、未来生活 now
5	A SEED JAPAN 新歓オリエンテーション	A SEED JAPAN 全体
	J-WAVE FLEA MARKET でブース出展	ケータイゴリラ
	グリーン・エコノミーシンポジウム「グリーン・エコノミーに対話と調和を」開催	未来生活 now
	エコライフフェア 2012 でブース出展	ケータイゴリラ、未来生活 now
6	ブラジル・リオデジャネイロで開催された リオ+20に参加、ポジションペーパーを発行	未来生活 now
	「ねねね、ネオニコチノイドってなあに？ ～マイ・プロジェクトをカタチにしようワークショップ」開催	
7	リオ+20 報告会の実施	未来生活 now
	環境ボランティア見本市 2012 でブース出展	ケータイゴリラ、未来生活 now
	第 4 回全国 NPO バンクフォーラムに参加	エコ貯金
	FUJI ROCK FESTIVAL 2012 でブース出展	ごみゼロナビゲーション
10	グローバルフェスタ JAPAN2012 でブース出展	ケータイゴリラ、未来生活 now
	金融機関の社会的責任に関する公開アンケートの送付	エコ貯金
	IMF/世界銀行総会に参加	未来生活 now
11	グリーン・エコノミー主流化セミナー「みんなで守る、みんなの水。」 開催	水源 WATCH!
	土と平和の祭典 2012 でブース出展	未来生活 now
	国際熱帯木材理事会（ITTC）に参加	つながりの森を未来へ
	マレーシア NGO ツアー実施（A SEED JAPAN、Caring for the Future Foundation Japan 共同）	
	「フェスをとび出して、未来を考えるワークショップ」開催	ごみゼロナビゲーション
	「Thanks Party ☆ 530×1601」開催	
	A SEED JAPAN 同窓会	A SEED JAPAN 全体
12	グリーン・エコノミー国際シンポジウム「市民と金融機関の対話から生まれる持続可能な社会」開催	エコ貯金
	金融機関の社会的責任に関する公開アンケート結果公開	エコ貯金
	エコプロダクツ 2012 でブース出展	エコ貯金、ケータイゴリラ、未来生活 now
	グリーン・エコノミー・ワークショップ「知らないと踏み出せない、わたしの生活と環境問題」開催	つながりの森を未来へ
2	「ビバ・マナビバ」開催	ごみゼロナビゲーション
3	会員合宿「Heart to Heart」の実施	A SEED JAPAN 全体
	グリーンエコノミー・ワークショップ「使い捨て時代を問い直す・311 から未来へ、私の一歩」開催	
	グリーン・エコノミー・シンポジウム「都市に生命を、おカネに意志を！～農と志金で東京を変えるための100人対話～」開催	未来生活 now

会員からのメッセージ

浅田　麻衣（あさだ　まい）　2011 年度～現在活動中、2013 年度代表

①活動のきっかけは？

大学3年のゼミでアブラヤシのプランテーションを研究していた時、自分の知識が増えても事態が改善されないという現状に歯がゆくなり、活動を始めました。

②現在の活動は？

携帯電話の中に含まれるレアメタル（希少金属）の採掘にまつわる問題、特にコンゴのゴリラやヒトがレアメタル採掘によって傷つけられている現状を、身近な携帯電話を通して伝えています。

③読んでいる方にメッセージ

A SEED JAPANには、明確なビジョンを持った素敵な仲間がたくさん活動していて、とても魅力的。まだ見ぬあなたと活動する時を楽しみにしています！

小林　邦彦（こばやし　くにひこ）　2008 年度～2011 年度中心に活動、2010 年度代表

①活動のきっかけは？

大学の授業で、A SEED JAPANの事を知り、「若者が自分たちの未来に向けて動いている」点に魅力を感じ、活動をしようと思いました。

②活動のやりかいは？

2011年度までチームをコーディネートしながら生物多様性に関する国際条約の動向を追い、未来世代として、またNGOとして経済優先でない選択を後押しする活動をしました。
学生の立場からは遠く感じられる国際の場においても本気で取り組んだ分だけ成果が生まれると思います。

③現在の仕事は？

現在はA SEED JAPANでの経験を活かし、環境省の中で仕組みを作る側として、生物多様性が公平に利用され次世代へと引き継がれるように邁進しています。

星野　智子（ほしの　ともこ）　2001 年度～ 2005 年度理事、2001 年度事務局員

①活動のきっかけは？

1993年に、世界中で環境問題に取り組むNGOスピーカー28名を招聘し、日本全国21地域を駆け巡った「スピーカーズツアー」のお手伝いをした後、ごみゼロナビゲーション活動の立ち上げにかかわりました。

②活動のやりがい、印象に残っている事

青年の声を政策に届けようとする意志とアクションが一貫していることを感じられる活動がいつでもあります。94年のごみゼロナビゲーション活動の立ち上げ時にはゼロから活動を作ったみんなとの熱い夜の作業が印象的です。

③読んでいる方にメッセージ

今と未来の人たち、そしてすべての命にとってフェアな社会をつくることが大事だと思います。そんな社会をつくる仲間がASJにはいると思います。
いいアイデア・声を集めてどんどんアクションし、発信しましょう。

2012年度全体収支決算書

（2012月4月1日から2013年3月31日まで）

国際青年環境NGO　A SEED JAPAN

科目・概要	合計金額	個別金額	備考
Ⅰ　収入の部			
1　会費収入	5,328,025		
TREE：学生正会員		129,500	37名
TREE：学生準会員		1,710,000	570名
ROOT：一般正会員		1,122,000	204名（口座引き落とし：SPRING会員含む）
ROOT：一般準会員		2,220,105	445名
特別会費		146,420	オリエンテーション等参加費収入
2　事業収入	47,444,449		
プロジェクト横断型事業		758,293	グリーンエコノミー啓発推進事業等
ごみゼロナビゲーションチーム		45,496,682	
エコ貯金プロジェクト		325,369	
ケータイゴリラチーム		191,100	
水源WATCH!プロジェクト		43,020	
つながりの森を未来へプロジェクト		362,005	
未来生活nowプロジェクト		267,980	
3　助成金等収入	4,900,000		
プロジェクト横断型事業		4,900,000	グリーンエコノミー啓発推進事業等
4　寄付金収入	3,498,492		
A SEED JAPANすべてへ		3,101,211	企業寄付を含む
ごみゼロナビゲーションチーム		28,000	
エコ貯金プロジェクト		38,100	
ケータイゴリラチーム		262,301	
つながりの森を未来へプロジェクト		1,500	
未来生活nowプロジェクト		67,380	
5　協賛金	5,603,300		
ごみゼロナビゲーションチーム		5,603,300	
6　雑収入	607,829		
利息		5,936	受取利息
その他		601,893	現金過不足等
7　事務所利用費	348,263		
印刷、コピー費		7,360	他団体の利用によるもの
内部チーム利用費		340,903	
当期収入合計（A）	67,730,358		
前期繰越収支差額	40,254,762		2011年度繰越金
収入合計（B）	107,985,120		
Ⅰ　支出の部			
1　事業費	61,640,452		
プロジェクト横断型事業		5,555,705	グリーンエコノミー啓発推進事業等
ごみゼロナビゲーションチーム		54,050,543	
エコ貯金プロジェクト		366,297	
ケータイゴリラチーム		958,172	
水源WATCH!プロジェクト		47,492	
つながりの森を未来へプロジェクト		368,563	
未来生活nowプロジェクト		293,680	
2　管理費	10,005,932		
人件費-給与手当		4,690,000	フルタイムスタッフ
人件費-雑給		98,120	臨時スタッフ
人件費-福利厚生費		35,367	雇用保険等
人件費-旅費交通費		455,520	
地代家賃		2,040,000	
水道光熱費		134,736	
備品消耗品費		36,160	
什器費		0	
新聞図書費		0	
通信費		158,830	電話、FAX、インターネット等
発送費		133,695	通常業務発送、定期刊行物発送等
印刷費		103,345	複合印刷機、輪転機のカウンター・サプライ料金
リース料		252,000	複合印刷機、輪転機の保守料、リース料等
旅費交通費		109,634	スタッフ定期外旅費、事務局パートナー旅費等
研究研修費		0	参加費補助、開催費補助等
会議費		55,998	会議室使用料等
諸会費		15,000	
保険料		1,000	事務所火災保険料等
租税公課		990,700	消費税
支払手数料		41,895	振込手数料等
業務委託費	464,031		印刷製本費、ITメンテナンス、税理士顧問料等
雑費		19,697	洗濯代等
法人税		70,454	
減価償却費		99,750	複合印刷機
予備費		0	
当期支出合計（C）	71,646,384		
当期収支差額　（A）-（C）	-3,916,026		
次期繰越収支差額　（B）-（C）	36,338,736		

報道採録

■A SEED JAPAN

ウェブ：『日経ウーマンオンライン』2012 年 5 月 25 日「美活ブログ エコランド広報 阿賀 清恵 「Less is Beautiful」エコランドいらないモノで、社会貢献。」

ウェブ：『USTREAM』2012 年 5 月 31 日「環境ビジネスウィメン.TV」

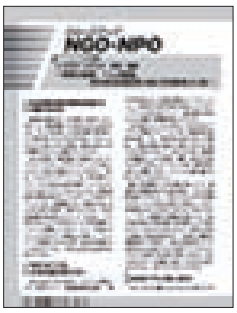
新　聞：『読売新聞』2012 年 7 月 1 日「リオ＋20 「開発と環境」少ない実り」

雑　誌：『自治体国際化フォーラム』2012 年 7 月 25 日「クローズアップ NGO・NPO」

新　聞：『東京新聞』2012 年 7 月 27 日「全面広告:国連持続可能な開発会議 Rio+20」

新　聞：『中日新聞』2012 年 7 月 27 日「全面広告:国連持続可能な開発会議 Rio+20」

ウェブ：『中日環境 net』2012 年 7 月 27 日「Viva 地球 Special」



自治体国際化フォーラム

■ケータイゴリラチーム

ラジオ：『J-WAVE』2012年5月6日「LOHAS SUNDAY／WATCH THE EARTH」

ラジオ：『J-WAVE』2012年6月2日「360°（スリーシックスティ）」

■エシカルメタルプロジェクト

ネット：『WirelessWire News』2012 年 6 月 8 日「通信業界とエシカル・メタル」

■生物多様性の利用をフェアに プロジェクト

新　聞：『沖縄タイムス』2012年4月24日「COP10 採択の「名古屋議定書」批准への動き鈍い日本」

ネット：『日経ビジネスオンライン』2012年5月7日「「遺伝資源」を活用して地域経済を活性化」

■未来生活 now プロジェクト

雑　誌：『つな環（第 20 号）』 2012 年 10 月「Rio+20 で問われた先進国の企業の役割」

つな環（第20号）

■エコ貯金プロジェクト

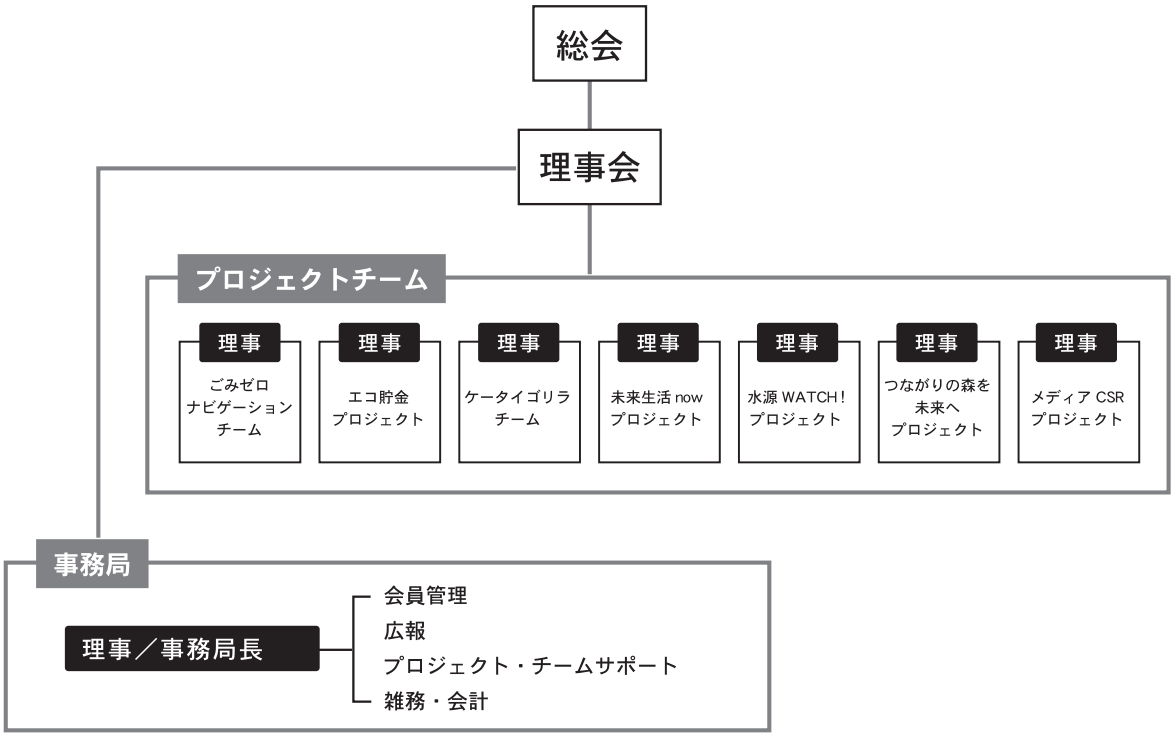
社内誌：『ろうきん社会貢献・NPO 活動レポート No.240』2012年5月14日「4/21,22 アースデイ東京参加レポート、4/7 職員向け自主セミナーの様子」

雑　誌：『月刊ソトコト 2012年8月号 No.158』2012年7月1日「特集 これからのお金の使い方」
『週刊金曜日』「エコ貯金で行こう！1「私たちが預けたおカネの行方」」
「エコ貯金で行こう！2「社会をよくするための貯金って？」」
「エコ貯金で行こう！3「オランダ発『賢く金融機関を選ぶ』活動とは？」」
「エコ貯金で行こう！4「世界的な動きになりつつあるエコ貯金」」
「エコ貯金で行こう！5「日本の金融機関はどうなっている？」」
「エコ貯金で行こう！6「金融機関の融資方針が変わってきたかも」」
「エコ貯金で行こう！7「エコな投資をしたかったら」」
「エコ貯金で行こう！8「社会のためのファンドもあるよ」」
「エコ貯金で行こう！9「おカネも『地産地消』できるのだ」」
「エコ貯金で行こう！10「『NPOバンク』って手もあるよ」」
「エコ貯金で行こう！11「エコ貯金を広めるために★その１」」
「エコ貯金で行こう！12「エコ貯金を広めるために★その２」」

レポート：城南信用金庫『「脱原発宣言」』

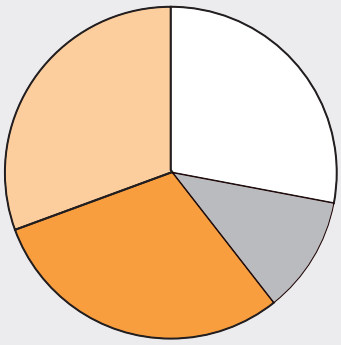
月刊ソトコト
（2012年8月号）

A SEED JAPAN　組織図



2012 年度理事・役員一覧

代表／理事	草刈良允　（慶應義塾大学大学院）	水源 WATCH！プロジェクト担当
理事	羽仁カンタ(ごみゼロナビゲーションチーム、FLAT SPACE)	ごみゼロナビゲーションチーム担当
	高木史織　（ごみゼロナビゲーションチーム）	ごみゼロナビゲーションチーム担当
	梅本一成　（会社員）	エコ貯金プロジェクト担当
	木村真理子（ごみゼロナビゲーションチーム）	ケータイゴリラチーム担当
	浅田麻衣　（首都大学東京大学院）	ケータイゴリラチーム担当（2012 年 9 月より）
	鈴木秀和 (FAMILY　TABLE／なゆたふらっと)	メディア CSR　プロジェクト担当
	鈴木亮（SuzuMedia 主宰）	未来生活 now プロジェクト担当
	岸田ほたる（A　SEED　JAPAN 事務局）	事務局長（2012 年 12 月 21 日まで）、つながりの森を未来へプロジェクト担当
	宮腰義仁（A　SEED　JAPAN 事務局）	事務局長（2012 年 12 月 22 日より）
監事	田辺有輝（特定非営利活動法人「環境・持続社会」研究センター）	



会 員 数　1267 名（2013 年 03 月 31 日時点）
正会員数　242 名（2013 年 03 月 31 日時点）

【内訳】

正会員
- 一般　204 名
- 学生　38 名

準会員
- 一般　574 名
- 学生　450 名

賛助会員：1 団体

A SEED JAPAN 会員制度のご案内

■会員になると・・・

- **ニュースレター「種まき」が届きます。**（不定期発行）
- **さまざまな活動に主体的に参加したり、新しい活動を提案する事ができます。**
- **会員のメーリングリスト「Koyashi」に加入できます。**（info@aseed.org 宛に「Koyashi 登録希望」と書いたメールをお送りください。）
- **ASJ 関連イベントに会員割引価格で参加できます。**
- **ASJ 出版書籍を会員割引価格で購入できます。**

年会費

	正会員	準会員	賛助会員
Root（一般）	￥5,500	￥5,000	
Tree（高校生・大学生・短大生・浪人生）	￥3,500	￥3,000	
Ground（賛助会員個人）			￥10,000
Ground（賛助会員団体）			￥30,000

正会員は、会員総会時の議決権をもつことができます。

■入会のお申込み方法

（1）入会のお申し込み（中央労働金庫、静岡銀行利用の場合）
A SEED JAPAN のサイトから「オンライン入会」のお手続きをしていただいた後、ご入金を確認次第、会員手続きをいたします。
オンライン入会サイト：http://www.aseed.org/admission/

（2）ゆうちょ銀行の場合
ゆうちょ銀行備え付けの振り込み用紙に必要事項をご記入の上、ご送金ください。

口座番号： 00130-8-609558　加入者名： A SEED JAPAN
住所氏名欄： ご住所、お名前（フリガナ）、電話番号、E-mail をご記入ください。
通信欄： A SEED JAPAN のことをどこでお知りになったか、性別、生年月日（西暦）、ご職業、ご送金の内訳をご記入ください。
【ROOT 正会員の記入例】「ROOT 正会員入会」

■SPRING 制度のご案内

お持ちの金融機関口座から、会費とご寄付を継続的に自動引き落としさせていただく会員寄付制度「SPRING」もお選びいただけます。ご希望の方は登録用紙をお送りしますので、A SEED JAPAN 事務局までご連絡ください。

A SEED JAPAN への 寄付のお願い

A SEED JAPAN 全体を支える寄付

問題を広く市民に伝えるためのセミナーの開催・ミーティングや作業スペースとしても使う事務所の維持費・助成をうけることが難しい部分へのご支援をいただくことで、本当に社会にとって必要な活動の実現や、A SEED JAPAN 全体を支える機能を維持することができます。

特定の活動への寄付

特定の活動をご支援いただく寄付です。ご入金の際にプロジェクト名をお知らせください。使途はご指定いただいたA SEED JAPANの活動の経費に活用します。

物品寄付

オフィスやご家庭で不要になったファイル、事務用品、その他クリアケース、スリッパなど譲っていただける場合は事務局までご連絡ください。

法人としての寄付など

A SEED JAPAN は法人のみなさまと活動を共にし、持続可能な社会にむけた活動を展開してきました。これからも、斬新でユニークな協働を検討していくとともに、寄付・協賛の方法も幅広く受け付けています。
詳しくはこちら→A SEED JAPAN 寄付のご案内 http://www.aseed.org/donation/

国際青年環境 NGO A SEED JAPAN
2012 年度 年次報告書
発行：A SEED JAPAN
発行日：2013 年7月18日
発行責任者：宮腰義仁
編集責任者：西島香織
編　　集　：大島亜里紗
デザイン：千坂美奈子（A SEED JAPAN 編集部）

〒160-0022　東京都新宿区新宿 5-4-23
TEL ：03-5366-7484 ／ FAX ：03-3341-6030
E-mail：info@aseed.org
URL ：http://www.aseed.org/